

国府高校の創立100周年記念事業

正門や中庭などが一新

生徒会長ら「次の1世紀への門出の年」

創立100周年を迎えた県立国府高校のメイン事業である正門と中庭などが完成し、24日に式典が開かれた。

代表の生徒たちや来賓など合わせて約80人が参加。事業を進めてきた記念事業実行委の大島嗣雄委員長は「先輩方の熱い思いを受け、(80周年事業

の山本稜さん(17)と、前生徒会長で3年の高津菜那さん(18)があいさつ。「2020年は国府高校にとって最初の1世紀が終わると同時に、次の1世紀への門出の年。これから将来への希望と可能性を秘めた新入生が、こ

周年時、実行委が校内の池周辺の整備を実施。100周年の整備はそれを引き継ぎ「記憶に残る風景の創造から新たな記憶の創出」をテーマに行った。正門を拡張し、そこから入ったセンターサークルなどには新たに作成したスクールマークを整備。マークは国府の頭文字のKと同校にあるめがね池がモチーフになった。その奥にある中庭は、生徒が集える芝生広場として整備。来月開かれる文化祭では、文化部がそこ

でパフォーマンスを披露し、同庭を囲む校舎の窓から生徒たちが見学する計画だ

という。工事は3月から行い、この21日に完了。総事業費は4767

万円。100周年記念式典は来年10月に延期になった。(森美香)



新しくなった正門 (国府高校で)



整備された中庭 (国府高校で)